

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	M7270	授業科目	日本民俗学特論		
担当者	小嶋 博巳	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について研究する。とくに、民俗宗教を形成する一つの契機である定住と遍歴の交渉に注目し、遍歴宗教者と、定住民の一時的遍歴としての巡礼をとりあげる。また、民俗社会における信仰・知識のあり方について考察する。				
到達目標	日本民俗学をはじめとする民俗宗教研究の立脚点を理解し、あわせて日本の伝統的社会のしくみとその宗教・知識のあり方に対する理解を深める。				
成績評価基準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する。 (授業中の発表の評価を加味する)				
留意事項	一部、演習形式もとり入れる。				
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。				
授業予定	1. 民俗および民俗宗教という概念 2. 遍歴者と定住社会 3. 遍歴宗教者の組織と活動 4. 巡礼という宗教 5. 伝承・俗信——民俗社会の知識				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	M7280	授業科目	比較文化特論		
担当者	紺谷 亮一	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	主に西アジアの文化について、その特異性と普遍性について解き明かす。異文化理解の方向性について考える。題材としては現代を含めた歴史性の中で取り上げていく。				
到達目標	比較文明論について、ある程度説明できるようにする。				
成績評価基準	口頭発表、レポート等で評価する。				
留意事項					
教材	テキスト、ビデオ等				
授業予定	1. 西アジアの風土 2. 西アジアの宗教 3. 西アジアの民族 4. 西アジアの食生活 5. 西アジアの今 以上を柱に授業を遂行する。				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	M7290	授業科目	家族・社会構造特論		
担当者	山下 美紀	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	本講義では、まず家族研究の基礎となる理論、分析方法、学説史などの基本を学ぶ。つぎに、古典的な家族論から家族社会学分野の最新の研究成果を取り上げ、輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族研究の基礎知識を身に付ける ・家族にかかわる諸現象を社会構造の変動と関連付けて、体系的・歴史的な枠組みに沿って理解できる ・社会的なものを見方、課題発見能力、社会的想像力を身に付ける 				
成績評価基準	上記に掲げた目標の到達度について、平常点（出席・発表・発言）と、期末に求めるレポートにより、総合的に評価する。				
留意事項					
教材	適宜、文献・論文を紹介し、プリント・資料を配布する				
授業予定	1. イントロダクション（家族研究への招待） 2～10. 家族研究の基礎知識 家族の歴史 家族の構造と機能 婚姻の成立 家族・同族・親族 家族問題 家族観の系譜 11～20. 家族史と古典的家族論 パーソンズ・・家族-核家族と子どもの社会化 アリエス・・子供の誕生-アンシャンレジーム期の子供と家族生活 マリノウスキー・・性・家族・社会 ラドクリフ＝ブラウン・・未開社会における構造と機能 マードック・・社会構造-核家族の社会人類学 戸田貞三・・家族構成 有賀喜左衛門・・家 21～30. 近年の家族研究 カンター&レアー・・家族の内側-家族システム理論入門 ドンズロ・・家族に介入する社会 渡邊秀樹他編・・現代家族の構造と変容 日本家政学会編・・現代家族を読み解く12章 『家族社会学』掲載論文などを使用				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程	研究分野／領域	生活文化論			
授業コード	M7300	授 業 科 目	食生活文化論特論		
担 当 者	清水 純一	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	<p>第1期（第1回～第15回）は、主として石毛直道によって確立された食文化研究の方法論に依拠し、「食」のモノとしての消費からココロ（＝人間）の豊かさを求める消費への移行に伴い成立した「食文化」の多様な側面に焦点を当て、比較食文化論の立場から考察する。</p> <p>第2期（第16回～第30回）は、主として日本の高度経済成長以後を対象にし、社会・経済構造の変化による食料消費の変化が、食生活に与えた影響を経済学の立場から分析する。</p>				
到 達 目 標	人文科学、社会科学の両面から食生活・食文化を分析する学際的アプローチを可能にする、思考能力、方法論を獲得する。				
成 績 評 価 基 準	授業の理解度と応用能力を発表および期末レポートによって評価する。				
留 意 事 項	与えられた課題を報告する一部演習形式も取り入れる。また、フィールドワークを実施する場合もある。				
教 材	参考文献は授業中に指示する。また、適宜プリントを配布する。				
授 業 予 定	<p>第1回：比較食文化論の領域</p> <p>第2回：15世紀以前の世界の様々な食類型（主食・牧畜・調味料）</p> <p>第3回：新大陸「発見」が人類の食類型に及ぼした変容</p> <p>第4回：柳田國男の民俗学と食文化（ハレとケの食事と年中行事）</p> <p>第5回：世界の3大食法の変遷</p> <p>第6回：食の思想の違い（中国・西欧・日本）</p> <p>第7回：世界の供給食の違い（中国料理と西洋料理）</p> <p>第8回：日本の供給食の形態の変化（大饗料理から会席料理まで）</p> <p>第9回：台所空間の変化と食生活</p> <p>第10回：異文化の食べ物の理解（「食の忌避」に関する飽戸弘の研究）</p> <p>第11回：宗教と食べ物（食のタブー）</p> <p>第12回：日本人とコメ</p> <p>第13回：肉食の思想（西欧と日本）</p> <p>第14回：日本人と牛乳・乳製品</p> <p>第15回：ケース・スタディー（多民族国家ブラジルにみる食文化の有り様）</p> <p>第16回：マルサスの飢餓の検証（人口増加と食料生産・分配）</p> <p>第17回：エンゲル法則の国際比較</p> <p>第18回：フードシステムの全体像</p> <p>第19回：経済成長と食料消費の成熟過程の概念図（成長曲線のアナロジー）</p> <p>第20回：人口・世帯構成の変化と食料消費</p> <p>第21回：女性の社会進出と食生活の変化（M字カーブの変化と食の簡便化）</p> <p>第22回：情報機器の発達と食文化の伝承（レシピの伝承形態）</p> <p>第23回：生活時間の変化と食生活</p> <p>第24回：食品工業の現状</p> <p>第25回：食料消費の変化が食品工業に及ぼした変化</p> <p>第26回：ライフスタイルの変化と食品小売業（コンビニエンスストアを中心に）</p> <p>第27回：テクノロジーの変化と食生活（冷凍食品・コールドチェーン・電子レンジ）</p> <p>第28回：フードシステムと環境問題（食品廃棄物・食の安全）</p> <p>第29回：食料自給率と食料自給力</p> <p>第30回：買物難民問題にみる食を巡る問題</p>				

人間生活学研究科 人間生活学専攻 修士課程		研究分野／領域	生活文化論		
授業コード	M7350	授 業 科 目	生活文化論演習		
担 当 者	清水 純一	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	人間生活の基盤をなす、生活文化に関する演習を行う。人文科学、社会科学の両面から生活文化を観察し、今後の我々の生活文化を占うために、調査・分析する力を養う。				
到 達 目 標	当該分野の基礎的な文献を読み解き、批評する能力を獲得し、統計学を使いこなすことができ、オリジナルな論考を論理的に展開できる研究能力を身につける。				
成 績 評 価 基 準	授業中の発表内容・姿勢 (50%)、期末レポート (50%)。				
留 意 事 項	統計学を使用するため、ある程度の数学の基礎能力が求められる。事前に高校までの数学を復習しておくこと。予習と復習に時間をかけること。特に復習が大事である。				
教 材	授業予定に書かれている文献以外は演習中に指示する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活文化論とは何か (概論) 2. 文献購読 (1) 青木保『異文化理解』岩波書店 3. 文献購読 (2) 青木保『多文化世界』岩波書店 4. 文献購読 (3) 祖父江孝男『文化人類学入門』中央公論新社 5. 文献購読 (4) 祖父江孝男『文化人類学入門』中央公論新社 6. 文献レビューの方法論 7. 文献レビュー発表 (文献購読 (1)～(4)に使用した資料) 8. 統計のための数学 (1) 線形代数 9. 統計のための数学 (2) 微積分 10. 統計学 (1) 記述統計 11. 統計学 (2) 推測統計 12. 統計学 (3) 因子分析とクラスター分析 13. アンケート調査表の設計 14. AHP 分析入門 15. 与えられたデータによる統計分析結果の発表 16. 世界の食事文化 17. 食の歴史人類学 18. 肉食の思想 19. 食の社会学 20. 文化人類学と食 21. ミクロ経済学の基礎 22. 食料と経済学 23. 論文執筆法 (1) アウトラインの組み立て 24. 論文執筆法 (2) 論理の展開方法 25. 論文執筆法 (3) 参考文献・引用・参照の表記 26. テーマの報告 (アウトラインと参考文献) 27. 参考文献レビューの報告 28. 中間報告 29. 最終報告 (プレゼンテーション) 30. 総括 				